

作文コンクール 優秀賞

(奈良県市長会長賞)

「北方領土問題」

安堵町立安堵中学校 松浪 愛子

夏休みに私は北方領土について調べようと思いました。理由は今、問題になっている領土問題について知りたかったからです。まず、北方領土とは択捉島、国後島、歯舞群島、色丹島の四つの島々をさします。元々、北方領土とその北にある千島列島には、アイヌ民族が住んでいました。そこに毛皮などを求めて南から日本人、北からロシア人が来て争いが起きた事もあります。そのため1855年に、日本とその北にあるウルップ島の間に関境線を引く事を話し合って決めました。ところが、第2次世界大戦末期の1945年、連合国の仲間だったソ連は、お互いを攻撃しない約束を破って、日本に攻め込みました。そして、日本が負けを認めていたにも関わらず、ソ連はその後も攻め続け北方四島を占領しました。これが「北方領土問題」の始まりです。四島に暮らしていた約1万7000人の日本人は強制的に追い出されたそうです。当時をふり返った元島民の方は、「戦争が終わり穏やかな生活が戻りつつありましたが、突然ソビエト軍が来て黒光りにした銃を片手に、土足で家に上がり込み、時計などを探し回り、略奪する事が日常茶飯事だった。」と話します。日本もその後、ソ連が不法占拠していると主張し北方領土を返すように求めているのですが、今のロシアは「大戦の結果ロシア領になった」と主張し譲りません。私はこんなのおかしいと思いました。その後四島を追い出された元島民は、各地に散らばりましたが、多くは島に見える北海道の最東端にある根室市に移り住んでいるそうです。しかし、戦後75年がたち元島民のうち1万1000人以上の方々の方が亡くなりました。残る約5100人の平均年齢は、約85歳で「生きているうちに故郷に帰りたい。」と願っているそうです。しかし、ロシア人が移り住み70年以上がたつ中でも領土問題を解決するために動きはあります。2018年11月には、安倍前首相とロシアのプーチン大統領は歯舞群島・色丹島を日本に引きわたすと書かれた「日ソ共同宣言」を基礎に話し合いを進めました。しかし、残念ながら交渉は進まず、日本とロシアの対立に加え、ロシアは自分の領土を守る姿勢をさらに強めています。昨年7月には、ロシアは憲法改正をし、新しく「領土を他の国へわたしてはいけない。」というのが追加され、日本に島々を返してもらうのはますます難しくなるのではと思われます。けれど、何で元々日本の大切な領土なのにロシアに奪われなくちゃならないのかが分かりません。私は疑問に思います。そんな大変な中ですが、島の方々からは「占領されても取り返してみせる」というそんな気持ちが伝わってきます。この前、新聞で「自由に帰れない故郷・・・北方領土」と言う記事を見つけました。それを読んで、私は遠いようで身近な問題なのだと思い直しました。元島民の方々もとても、苦労なさっていると思います。他にもこんな話がありました。北方四島が占領されている時の事です。「防空壕を作り、中に食料などが入っていたがソ連兵に見つかり没収された。貴重だった練乳を飲み捨てて行きそれを見ていることしか出来なかった。」これを聞いて島民の食料を奪って捨てるなんて人としても最低だし、北方四島は元々島民のものなんだから占領する意味もない。他にも「ロシア人が土足で入ってきた。子供の時、休日に国旗をあげる役目だった私はタンスに国旗をしまっていたがロシア人がそこを開け、日の丸の旗を取り出し二つにさいた。」この事が一番悔しいことだったそうです。私もこの話を読んだ時とても悔しくて怒りがこみあげてきました。それに悲しい事でもあります。こういう事を私達も決して忘れず、語りついでいかなければと思います。そして早く北方領土を取り返し皆が笑顔になれる事を願います。